



町内会2025夏祭り

寒いけど飲んで食べて



町内会主催のヒルタウン夏祭りが7月12日、C棟裏広場でにぎやかに開かれました。

この日は、恒例のビンゴ大会が始まるころには気温が20度を切る、あいにくの肌寒さ。自宅に戻って上着を羽織って来る人たちが続出しました。

今年は、A棟の松尾正康さんが趣味を生かして作り上げたスマートボールや、ペン立てなどを完成させる木工コーナーが初お目見え。多くの子どもたちが懸命に作業に取り組む姿が見られました。

寒い中でもビンゴ大会は大盛り上がり。「ビンゴ！」の声が上がる度に拍手や歓声が沸きました。午後7時過ぎにビンゴ大会が終わると、多くの人たちが帰宅。夏祭りでは珍しくビールが売れ残りしました。

①パノラマ「祭り会場」＝カメラ同好会・赤木泰一さんが“360度カメラ”で撮影②裏山斜面から見た会場全景③木工コーナーで真剣に作業する子供たち④1杯200円のビール売り場は大忙し



→災害時の要支援者59世帯67人（6月15日現在）の担当者を確認した後、30年前の1995年1月に起きた阪神淡路大震災のYouTube映像を視聴。6400人余りの死

“6キロ”背負い駆け上がり お助け隊初訓練

ヒルタウン自衛防災隊お助け隊の本年度初顔合わせ＝写真①＝と訓練が6月15日に行われました。

本年度の隊員は男性11人、女性12人の計23人。16歳から69歳までで、平均年齢52.5歳。世話役の役員4人を含め総勢27人です。この日は、隊員8人が参加しました。→

者を出した大参事を目に焼き付けました。

ヒルタウン最上階までの駆け上がり訓練では、6階入る背負子に水を入れて＝写真②＝ゴー。ある女性隊員は「体重6kgの4カ月の赤ちゃんを背負うのと同じ重さだけど、実際の災害ではこれを繰り返すことになるのね」と気を引き締めていました。

C棟で火事騒ぎ

6月6日夜、C棟の一室で火事騒ぎがありました。室内で焼き肉をしていたところ煙感知器が作動、C棟全館に非常ベルが鳴り響いたのです。

他の住民の119番通報で消防車1台も駆け付けましたが、火が出ることもなく、驚いて各居室から飛び出てきた皆さんもしばらくして引き揚げました。

札幌市消防局の防火安全係では、次のような対応を取るよう話しています。①煙の発生を大幅に抑制できる専用グリルを使用②窓の開放、換気扇の強運転、サーキュレーターの併用で煙を屋外へ排出③一度に大量に焼かず、煙の発生量を抑える④感知器

セミナー「高齢者の生きがい」 社協職員が講話

町内会セミナーが6月8日、管理棟プレールームで開かれました。

豊平区社会福祉協議会職員の小笠原瑠々さんが「高齢者の集いの場や生きがいについて」と題して講話しました＝写真＝。

この中で、小笠原さんは「少子高齢化」「近隣関係の希薄化」「核家族・単身化」「認知症」など様々な地域課題があることを指摘。「会話がなない」「挨拶をしない」「近隣関係がなない」など孤独死につながる9つの「ない」に注視し、社会的なつながりの重要性を訴えました。



変異株「ニンバス」に注意を

なりを潜めているように見える新型コロナですが、「ニンバス」と呼ばれる変異株がいま猛威を振るっています。強烈な喉の痛みを生じるのが特徴で、「カミソリの刃で切られたような喉の痛み」とたとえられています。

これまで主流だったオミクロン株の派生型。感染力が非常に強いため、高齢者は特に注意を要すると言われて

の直下を避け、窓際など通気の良い所で焼く

鈴木貞夫さん死去

ヒルタウンの重鎮として住民の生活向上に尽力した鈴木貞夫さんが7月2日、亡くなりました。享年92歳でした。

鈴木さんは2004年に管理組合副理事長に就任、翌05年から4年間理事長を務めました。その後、2011年から5年間、ヒルタウン平岸町内会の会長となり、その後、相談役、顧問の職にありました。

います。道内では、6月9日－15日の週には1指定医療機関当たり0.51人、総感染者数86人にまで減少していましたが、翌6月16日－22日の週から増加に転じ、直近の8月4日－10日の週は、1指定医療機関当たり2.52人、総感染者数410人。1指定医療機関の「2.52人」は全国最少ですが、感染者総数の「410人」は全国で16番目に多い人数です。

うがい、手洗いなどを守り、感染予防を怠らないでください。

願い込め…七夕飾り

夏の風物詩、七夕飾りが7月27日から8月7日まで管理棟屋上にお目見え＝写真⑤＝、入居者の皆さんの目を楽しませました。

初日に、町内会役員や子どもたちが短冊に思いの願い事を書き入れ、柳の木につるしました。「世界が平和になりますように」－戦争のない世界の実現を望む言葉が多くありました。

「日本ハムがずっとかちますように」「サッカーがうまくなりますように」「ラグビーせんしゅになれますように」「恋人ができますように」－さまざまな“願い”も託されていました。

毎朝元気にラジオ体操

札幌市内の小中学校が夏休み入りした7月26日から8月4日まで、ヒルタウンでは恒例の朝のラジオ体操が行われました。

初日の26日は、あいにくの雨模様。会場がC棟裏広場からC棟通路に変更されました。子ども3人、大人8人が参加し、出席カードを受け取ったあと、午前6時半からのラジオ体操第一、同第二の放送に合わせて元気に「いっしょにつさん」。

最終日の8月4日は良いお天気。C棟裏広場に子ども4人、大人14人が参加。ラジオ放送を聞きながら伸び伸びと体を

動かしました＝写真⑥＝。

体操を終えた皆さんは、出席カードに最後の印を押してもらった後、参加賞（商品券）を受け取ってニッコリ。10日間欠かさず通ったという子どもさんは、誇らしげな笑顔を見せていました。



ドーム親子応援観戦 エスコン応援観戦 劇的逆転サヨナラ

が8月19日に行われ、北広島市の北海道日本ハムファイターズ本拠地で、この日屋根を開放したエスコンフィールド北海道で、ソフトバンクとの首位攻防戦3連戦を含む6連戦の初戦、オリックス戦を楽しみました。

事前の参加申し込みは22人。今年も、ナイターのためか夏休み中の子どもさんの申し込みはありませんでした。

日本ハムは3点を先制するものの、先発・達孝太がオリックスに満塁ホームランを許し、3-5のまま9回裏へ。2死満塁のチャンスに野村が走者一掃の2塁打。6-5と劇的な逆転サヨナラ勝ちし、大いに沸きました。



老朽マンションの再生を促進するため、分譲マンション関連の一括改正法が5月下旬、国会で成立し、来年4月から施行されます。

これによって、マンションの売却や取り壊しは、これまで「所有者全員の同意」が必要でしたが、「5分の4の賛成」で出来るようになります。

大災害で被災し、復旧する場合は、所有者の「3分の2の賛成」で建て替えや取り壊しができるようになりました。

外壁の耐火・耐震性が不足する場合は、所有者の「4分の3の賛成」で関連工事ができるようになります。

共用部の修繕や管理規約改正に必要な決議要件は、これまで「所有者の過半数」の賛成が必要でしたが、「集会出席者の過半数」で可能と大幅に緩和されました。

老朽化で危険なマンションには、自治体が管理組合に補修を指導、勧告できるようになりました。

マンション再生促進へ法改正



アルミ缶は資源です 捨てずに専用カゴへ入れて

ビール缶（350ml）、緑茶ボトル缶（400㍓）、日本酒ボトル缶（180ml）などに使われているアルミ缶。ヒルタウンでは専用の回収カゴを設け、住民のみなさんに資源化への協力を呼びかけています。ただ、まだまだそのままゴミとして捨てられるケースも見受けられ、より一層の理解が求められています。

アルミ缶リサイクル協会によると、2024年度に全国で回収されたアルミ缶は209億缶、31万2817トン。この99.8%がリサイクルされています。

再び同じアルミ缶に再生されるのは7割強に上っています。

ヒルタウンではA棟、C棟に置かれた回収カゴに集まったアルミ缶は、月に2回、業者によって1キログラム（350ml缶で約70本分）当たり30円で買い取られています。

24年度実績は885キログラム、金額にして2万6550円です。回収1回当たり平均37キログラム、金額にして1100円ほどです。買い取り価格としては決して高くはありませんが、資源を大切にするという気持ちが重要です。

ヒルタウンの向かいにあるUR都市機構平岸住宅では11年前から「びん・缶・ペットボトル」回収日の毎週月曜、ボランティアの皆さん4人ほどが、約100世帯から出されたゴミ袋の中からアルミ缶を分別する作業を行っています。

当初は、ゴミ袋を開けてアルミ缶を取り出すことに抵抗感を示す住民もいたようですが、今では理解を得られているということです。ヒルタウンと同じ業者による買い取り金額は、年間で1万円ほどですが、町内会会計に繰り込み、役立てられています。

札幌市によると、ヒルタウンを含め市内のごみステーションから集められたアルミ缶は、資源選別センターで選別さ

れた後、リサイクル会社に売却されています。ここでも資源化に役立てられているわけですが、ヒルタウンのみなさんは、棟の専用カゴでのアルミ缶回収に協力していただきたいものです。



C棟通路に常設されているアルミ缶回収用の専用カゴ

スチール缶も資源

缶ジュース、缶コーヒー、缶詰などに使われるスチール缶にも「あきかんはリサイクル」＝写真＝と表記されており、資源化を促しています。



しかし、スチール缶をアルミ缶同様に集め、換金する取り組みを行っているところは少ないようで、ヒルタウンでもスチール缶については呼びかけられていません。

買い取り価格が1キログラム（350ml缶で約70本分）当たり10円程度という安さが原因かもしれません。

編集後記

長野県上田市に「無言館」という美術館があります。9年前に訪れました。絵を志しながら戦争に駆り出され、若くして命を落とした画学生たちの作品が展示されています。妻や恋人の裸像、愛する家族の団らん、生まれ育った街の光景など、どれも「何か」を訴えかけてきます。

今年5月、その館主である窪島誠一郎さんの講演を聞く機会がありました。今、その著書「流木記—ある美術館主の80年」を読んでいます。今年は「戦後80年」でもあります。画学生を含む多くの国民の犠牲でようやく実現した「平和」を続けたい。

町内会の扉をノックしませんか

この広報紙は、町内会に入っていないお宅にも配布しています。お宅も会員になりませんか。お問い合わせ、入会を希望される方は総務部長の秋山一彦さん（電話842-9378）へご連絡ください。管理事務所に入会申込書があります。



149世帯（8月21日現在・加入率53.0%）

＜前号掲載時との増減 -1＞